



合志市地域おこし協力隊  
の だ か ず き  
野田 和樹

経験や人脈を生かした  
ワークショップを企画しています。  
ぜひ参加してください。

## 合志市で 地域おこし協力隊 始めました

都市部から地方に移住し、地域活性化に力を貸してくれる地域おこし協力隊。11月から、本市の地域おこし協力隊に就任した野田さんにインタビューしました。

●問い合わせ先 生涯学習課 生涯学習班 ☎248-5555

### Q. どちらからいらっしゃいましたか

熊本市から来ました。以前は営業や、カメラ・写真の販売店で勤務し、デザイナーやカメラマンとして活動していました。

### Q. なぜ本市の協力隊になったのですか

旧庁舎がルーロ合志になった頃に、仕事でこの場所を訪れ、こんなに素敵な場所で働いてみたいと思っていました。クリエイター塾の理念にも共感し、人と場所を繋いで市を盛り上げていけたらと思い応募しました。

### Q. どんな活動をしますか

ルーロ合志内にある、市クリエイター塾事務所の管理や塾生とのやり取りを行ないます。カメラや写真のアドバイスもできるので、市内の撮影スポットの掘り起こしをして、市に関わる人を応援する活動をしていきたいです。

### Q. 3年後、合志市をどんなまちにしたいですか

地元の人にとっては普通の風景でも、とても面白くて魅力的な場所があります。そんな場所をたくさん発見して、外に向けて発信し、たくさんの人が訪れてくれるようになるのが嬉しいです。



▲活動拠点となるルーロ合志内の事務所

### ▶料理撮影ワークショップ

プロカメラマン 保田有希さんを講師に、料理をキレイに撮るコツを学びます。座学後は実際に撮影にチャレンジ。撮影後には料理をいただきます。  
とき 12月20日(日) 午前10時～正午  
ところ 地菜地食ふるしょう(御代志2086-32)  
対象 18歳以上  
定員 10人  
参加費 1,500円(セミナー代、昼食代、場所代)  
持参するもの カメラ  
申込期限 12月18日(金)

カメラ初心者歓迎

### ▶似顔絵ワークショップ

似顔絵アーティストのJEROさんを講師に、似顔絵の描き方を学びます。似顔絵日本チャンピオンによる、特徴の捉え方や上手に描くコツを学びましょう。  
とき 令和3年1月16日(土) 午前10時～正午  
ところ ルーロ合志 213  
対象 小学生以上  
定員 10人  
参加費 500円(セミナー代、画材代、場所代)  
申込期限 令和3年1月14日(木)

### ●問い合わせ先

☒ loolokoshi213@gmail.com 担当 野田



◀ワークショップの詳細を、左記ホームページより確認のうえ、応募フォームよりお申し込みください



## 小さな声を届けたい



①ドイツを訪れた時に、子どもたちに写真の撮り方を教えている様子。  
②ベルギーでシリア人家族と交流しました。

高木さんの活動はこちらから



フォトグラファー  
たかき 高木 あゆみさん(須屋)  
(写真左から高木さんの娘さん、本人)

「世界のことを知ってもらい、共感した気持ちを行動に移しても良かったら嬉しい」と語る高木さん。12月27日(日)までヴィーブル市民ホールで開催している絵本写真展では、当時5歳の娘さんと海外を巡った記録を展示している。海外に関心を持つきっかけは中学生の時に見たテレビ番組だった。同じ年でも学校に行けない人やご飯を食べられない人がいることに衝撃を受けた。大学では国際協力の活動に携わり、卒業後にカメラの勉強を始めた。「小学生の時に父からプレゼントされたカメラで思い出を記録していたので、写真を撮る習慣がありました」その後、家族写真などを撮影するフリーカメラマンとして活動を開始した。

転機は熊本地震のとき。地震前に家族写真の依頼をした人が益城町在住だったため、電話で安否確認すると「私は無事だけど、周りには崩れた家だらけです。地震の記録を残さないといけないけど、辛くて写真を撮れないので写してほしい」とのことだった。高木さんは支援物資を届ける傍ら、町内を取材した。その内容をブログに載せると多くの反響があった。「情報を知るのはメディアで十分だけど、ここでは取り上げられない小さな声を届けたい」この時に活動の道標ができた。昨年、娘さんを連れて14カ国を110日間かけて旅で巡った。「難民の取材、そして娘に世界のことを伝えることが目的でした」と振り返る。一番印象に残っている出来事はベルギーを訪れた時のことである。「シリアから難民として来た子がいて、すぐに娘と仲良くなりました。普段は明るいけど、母国での紛争体験から、一人で外を歩けないんです」爆発の音や風、悲惨な体験が心の傷となっていた。「一般人の私が世界の出来事を伝えることで、身近に感じてほしい。環境や人権に配慮してつくられたものを買うとか、社会全体のことを考えて行動につなげてほしい」小さな声を届けるための旅は始まったばかりだ。